

報道関係者各位

2023 年 9 月 8 日
株式会社 Recursive

弊社 COO 山田勝俊が登壇
「サステナビリティ視点の
ビジネス開発ヒントを一挙公開」セミナーレポート
～サステナビリティと収益性の両立のために知っておくべき 3 つのポイント～

株式会社 Recursive（本社：東京都渋谷区 代表取締役：ティアゴ・ラマル、以下「リカーシブ」）は、総合企画事業や総合広告事業を展開する株式会社スコープ（本社：東京都千代田区、以下「スコープ社」）に協力し、共同創業者兼取締役 COO の山田勝俊がスコープ社の社員向けに「サステナビリティ視点のビジネス開発ヒントを一挙公開」という題目での講義をしました。これは、2023 年 7 月に同社で講義した「未来志向のサステナビリティ×ビジネス視点」セミナーの続編です。今回はその概要をご紹介します。

登壇者の山田は、サステナビリティに関する事業を複数立ち上げてきた実績があります。サステナビリティを重要視する新しい市場において、多くの世界中の企業がサステナビリティと事業の両立法を模索し、より実践的な新規ビジネスの企画を作るための着眼や発想法について解説していきます

■セミナー「サステナビリティ視点のビジネス開発ヒントを一挙公開」概要

バックキャスト思考とフォーキャスト思考

持続可能な社会を作るための事業開発においては、課題解決型のアプローチが有効だと考えています。その中で、多くのクライアントに紹介している、バックキャスト思考とフォーキャスト思考について説明します。

バックキャスト思考とは、将来の目標やビジョンを設定し、その目標を達成するために必要なステップや行動を逆算して考える方法です。具体的なアクションプランを立て、未来の状態を具体的に描写することで、抽象的な目標を実現可能なステップに分解し、現実的な計画を立てる指針とします。一方、フォーキャスト思考とは未来を予測し、そこに対応するための戦略やアクションを考える思考のアプローチです。これは、将来の可能性や変化を予測し、それに備えるための準備や改善をすることで、組織や個人がより適切に計画し、リスクを軽減するための手法です。

持続可能な社会を作るということは、現在と未来の両方とも重んじて考える必要があり、バックキャストとフォーキャストを適切に組み合わせることで、将来の不確実性に対応しながらも具体的な目標に向かって進むための戦略を構築できるようになります。

もちろん、業界や企業ごとにカスタマイズされたアプローチが必要ですが、人々の共感を得る課題解決を発想するのに役立ちます。

フレームワークの紹介

持続可能な社会を作るためのソーシャルデザインにおいて、活用している方法をご紹介します。まず、PEST 分析（Political, Economic, Social, Technological Analysis）は、組織や

ビジネスが外部環境の要因を評価するためのツールです。持続可能な社会を作っていくことに大きく関係する、政治的(Political)、経済的(Economic)、社会的(Social)、技術的(Technological)な要因を分析し、現状や問題点を理解するのに役立ちます。

また ABCD メソッドという戦略的に持続可能なソーシャルデザインやビジネスを開発するためのフレームワークがありを活用します。ABCD メソッドは、未来の成功を明確化し(Awareness and Defining success)、現状を把握した上で(Baseline current state)クリエイティブな解決(Creative Solutions)を生み出し、プライオリティを決定する(Decide on priorities)という手法で、前述のバックキャストをベースにした考え方です。未来の状態を具体的に描写することで、抽象的な目標を実現可能なステップに分解し、現実的な計画を立てる支援をします。この二つのフレームワークを融合させることで、未来の人々や地球環境に貢献できるか、また派生的に事業になるのかなどを考えています。

アジャイル思考とデザイン思考

アジャイル思考は、複雑な問題に対して適応的に対処し、価値ある成果物を迅速に提供することで、小さな修正を繰り返しながら完成度を高めていく考え方が重視されます。デザイン思考は、人のニーズや欲求を主軸に問いを立て、アイデアの創出や、課題を解決するための創造的なアプローチです。アジャイル思考は、市場への迅速な投入や要求の変更への対応能力、生産性向上などが背景とされており、特に市場への投入までの時間短縮や要求の優先度変更の柔軟性が大きな利点とされています。また、アジャイル思考は、変化の激しい現代のビジネス環境に適したアプローチであるとされています。デザイン思考ではまずニーズを理解する段階から始まります。深く考えて、失敗を最小限に食い止めるために時間をかけることが重要です。アジャイル思考とデザイン思考の組み合わせや適切なコンテキストでの活用によって、より効果的なプロジェクトやイノベーションが実現されることがあります。事業開発の際にこのアプローチを適切に実践していくことが大切です。

事業実装までのプロセスと注意点

次に、事業実装までの主なステップについては、1 から 5 までの次のように実装します。ステップ 1「課題の特定」。誰の、何の課題を解決するのかを明確にします。

ステップ 2「仮説の構築」。課題解決の方法や喜びを提供するターゲットを特定し、市場の影響を評価する。ステップ 3「検証」。仮説の実証をします。ステップ 4「ソリューションを市場に適合させる」。試行錯誤を通じて洗練させます。ステップ 5「スケールアップ」物事やプロジェクトの規模を拡大し、市場シェアを広げます。

これらのステップを経て、特定の社会課題を解決するためのアイデアを継続的に評価します。課題の特定からアイデアの検証、最終的なアイデアの選択まで、アジャイルなアプローチを通じて進行することが強調されています。また、アイデアの選択においては、社会的インパクトや実現可能性を評価する評価軸を設定し、慎重な選択をします。

事業を成功させるためのポイント

事業開発が成功するときの特徴は、非常にシンプルで、これはサステナビリティに関連する事業においても同じです。同じ目標を共有し、バランスの取れたチームが挑戦を受け入れることが重要です。また、意思決定者の協力や必ず成し遂げるという覚悟も必要です。逆に、事業開発がうまくいかないときは、言い訳や自己制約が多い傾向があります。大企業では、新しいアイデアや変革が受け入れにくいケースも見られます。共通しているの

は、新しいことを試さない姿勢が問題とされています。また客観視、特に顧客視点を忘れて自分たちだけの視点で事業を進めることもリスクになります。

ただ、複数の大企業が新規事業の立ち上げが上手くいかずに、その事業を撤回した経験があります。GAFAM^{*1}のような IT 業界の代表とされる大手企業でも、新規事業を軌道に乗せられないまま、事業を撤退させることは珍しくないのです。失敗を責めるのではなく、挑戦したことをまずは評価する。挑戦して上手く行かなかった人には、こうすると上手くいかない事を分からせてくれてありがとうと、逆に感謝する。とにかく挑戦者を一番に評価することを皆さまの心に留めておいていただきたいと思います。

以上がセミナーのダイジェストになります。

■セミナー参加者の声

また、セミナー後の感想として、次のような感想をいただきました。

「自己満足にならない、顧客が喜ぶサステナビリティの提案で、ビジネスに繋げることの重要性が改めてわかりました。」

「サステナビリティを軸とした今後の世界動向が窺い知れる内容で勉強になりました。また具体的なビジネスの考え方やプロセスについては、サステナビリティ領域に関わらず、他の事業や業務にも通ずる内容で参考になりました。」

「新規事業に共通する部分の話が聞けて参考になった。さらに、プロジェクトが上手く行かないケースの話が興味深かった。現在動かしている新規事業プロジェクトを修正しないといけないか？と思いました。」

リカーシブでは、社会におけるサステナビリティとビジネスの両立をより普及すべく、事業を推進していきます。

*1 GAFAM（ガーファム）とは、米国の IT 関連企業大手 5 社、グーグル（Google）、アップル（Apple）、メタ・プラットフォームズ（Meta 旧社名:Facebook）、アマゾン・ドット・コム（Amazon）、マイクロソフト（Microsoft）の 5 社の頭文字をつないだ造語。

株式会社 Recursive について

Recursive は、持続可能な未来を構築するための AI ソリューションを提供するサービスプロバイダーです。環境、エネルギー、医療、製薬、食品、小売など多岐にわたる業界の知見と高度な技術力、サステナビリティ事業に関する専門知識を組み合わせ、AI のシステム開発やコンサルティングサービスを提供しています。より良い地球環境や社会を未来の世代に残すために、比類なきプロフェッショナルが世界標準のテクノロジーで新しい社会づくりをリードします。

会社名：株式会社 Recursive / Recursive Inc.

代表者：ティアゴ・ラマル

所在地：〒150-0001 東京都渋谷区渋谷一丁目 7 番 1 号 渋谷 S-6 ビル 6 階

設立：2020 年 8 月

事業内容：AI 開発、サステナビリティ事業に関するコンサルティング

URL：<https://recursiveai.co.jp>